

イ. 鳥 類

抽出の結果、表 5.2.8.50～51 に示すとおり、文献資料に基づく種として、19 科 56 種が確認され、現地調査では、14 科 22 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.17(1)～(2)に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.52 (1)～(4)に示すとおりである。

なお、選定基準 4 の「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（平成 18 年、神奈川県生命の星・地球博物館）では、鳥類については繁殖期と非繁殖期でカテゴリーが異なる。そのため、春季調査の確認種は繁殖期のカテゴリーに該当する種を注目すべき種として抽出した。

表 5.2.8.50 注目すべき鳥類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名		文 献				選定基準				
			和名	①	②	③	④	1	2	3	4		
											繁殖期	非繁殖期	
1	コウノトリ目	サギ科	ヨシゴイ			●					NT	VU	
2			ササゴイ			●						VU	
3			アマサギ			●						減	
4	カモ目	カモ科	シマアジ			●							希
5	タカ目	タカ科	ミサゴ			●					NT	VU	NT
6			オオタカ			●				内	NT	VU	希
7			ツミ			●						VU	希
8			ハイタカ			●					NT	DD	希
9			ノスリ			●						VU	希
10		ハヤブサ科	ハヤブサ			●				内	VU	CR+EN	希
11	キジ目	キジ科	ウズラ			●					NT		VU
12	ツル目	クイナ科	クイナ			●							VU
13	チドリ目	チドリ科	コチドリ			●						注	
14			イカルチドリ			●						NT	注
15			シロチドリ			●						VU	NT
16			ムナグロ			●							減
17			ケリ			●						希	NT
18			タゲリ			●							VU
19		シギ科	キョウジョシギ			●							VU
20			トウネン			●							VU
21			ヒバリシギ			●							NT
22			ウズラシギ			●							NT
23			ハマシギ			●							VU
24			エリマキシギ			●							NT
25			ツルシギ			●							NT
26			コアオアシシギ			●							NT
27			アオアシシギ			●							NT
28			タカブシギ			●							NT
29			キアシシギ			●							VU
30			イソシギ			●						希	注
31			ソリハシシギ			●							VU
32			オグロシギ			●							VU
33			ホウロクシギ			●						VU	CR+EN
34			チュウシヤクシギ			●							VU
35			タシギ			●							注
36		カモメ科	コアジサシ			●				際	VU	CR+EN	
37	フクロウ目	フクロウ科	トラフズク			●							CR+EN
38			コミミズク			●							CR+EN
39			アオバズク			●						VU	
40	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ			●						減	
41	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ			●						減	
42		ツバメ科	ツバメ			●						減	
43			コシアカツバメ			●						減	
44		セキレイ科	キセキレイ			●						減	
45			セグロセキレイ			●						減	
46			ビンズイ			●						VU	
47		モズ科	モズ			●						減	
48		ツグミ科	アカハラ			●						減	
49		ウグイス科	オオヨシキリ			●						VU	
50			セッカ			●						減	減
51		ホオジロ科	ロジュリン			●					VU		VU
52			ホオアカ			●						CR+EN	
53			アオジ			●						VU	
54			クロジ			●						CR+EN	減
55			オオジュリン			●							VU
56		アトリ科	カワラヒワ			●						減	
9目19科56種					0種	0種	56種	0種	0種	3種	9種	31種	37種

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.51 注目すべき鳥類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲											
		1	2	3	4		5	実施区域					実施区域の周辺地域					
					繁殖期	非繁殖期		冬季	春季	初夏	夏季	秋季	冬季	春季	初夏	夏季	秋季	
ウ	カワウ						一	●					●	●	●	●	●	●
サギ	ササゴイ				VU		二							●	●	●		
	アマサギ				減		二		●	●	●	*		●	●	●		
	ダイサイギ						二	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	チュウサギ			NT			二				●					●		
	アオサギ						一	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
タカ	ミサゴ			NT	VU	NT	一						●					
	オオタカ		内	NT	VU	希	一					●	●					●
	ツミ				VU	希	一					●						●
クイナ	オオバン					二						●					●	
チドリ	コチドリ				注				●					●				
	ケリ				希	NT	二	●					●					●
	タゲリ					VU	二						●					
シギ	イソシギ				希	注											●	●
	タシギ					注						●						●
カモメ	コアジサシ		際	VU	CR+EN									●	●	●		
ハト	アオバト				注	注	二											●
フクロウ	アオバズク				VU									●	●	●		
アマツバメ	ヒメアマツバメ				減								*	●				*
カワセミ	カワセミ						二	●						●	●	●	●	●
キツツキ	コゲラ						二							●				●
ヒバリ	ヒバリ				減			*	●	●	●	*	*	●	●	●	●	*
ツバメ	ツバメ				減				●	●	●			●	●	●		
セキレイ	セグロセキレイ				減								*		●			*
モズ	モズ				減			*		●	●	*	*		●	●	*	
ウグイス	オオヨシキリ				VU				●	●	●			●	●	●		
	セッカ				減	減			●	●	●		●	●	●	●		
ホオジロ	ホオアカ					二	●											
アトリ	カラヒワ				減			*	●	●	●	*	*	●	●	●	*	
14科 22種		0種	2種	4種	19種	9種	16種	6種	9種	9種	10種	3種	11種	15種	15種	16種	12種	
					21種			18種					28種					

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

神奈川県 RDB 該当種で、繁殖期のみ該当する種は非繁殖期(冬季・秋季)においては注目すべき種としては扱わない。このため、非繁殖期(冬季・秋季)の確認については"*"で表記している。また、時期別の確認種数には含まれていない。

表 5.2.8.52(1) 注目すべき鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
ササゴイ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に1例1個体、初夏に2例2個体、夏季に6例6個体が確認された。
	一般生態	本州から九州の各地に夏鳥として渡来し、繁殖する。九州南部では冬季も留まるものがある。薩摩諸島以南では冬鳥として渡来する。河川や湖沼等の水辺に生息し、魚類やカエル類、アメリカザリガニ等を捕食する。繁殖期は4～7月頃で、水辺近くの樹上に巣をつくる。
アマサギ	確認状況	実施区域の水田において、春季1例1個体、初夏に1例1個体、夏季に3例12個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、春季に1例2個体、初夏に2例2個体、夏季に1例4個体が確認された。
	一般生態	主に夏鳥として渡来し、本州以南で繁殖するが、九州や南西諸島では多くが越冬する。主に昆虫類やカエル類を捕食する。他のサギ類よりも乾いたところを好む。繁殖期は4～9月頃で、樹林や竹林に他のサギ類とともに集団で営巣する。
チュウサギ	確認状況	夏季の調査において、実施区域の水田で5例37個体、実施区域の周辺地域の水田で4例10個体が確認された。
	一般生態	冬季は南方に渡去する個体が多いが、少数は関東地方以南で越冬する。主に平地の草地や水田、湿地等に生息するが、河川にも出現することがある。水辺や湿潤な草地をゆっくり歩きながら、昆虫類や魚類、甲殻類、両生類等の小動物を捕食する。繁殖期は4～9月で、平地や丘陵の樹林地に他のサギ類とともにコロニーを形成し、マツ林や雑木林、竹林等の樹上に営巣する。
ミサゴ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、冬季に4例4個体が確認された。
	一般生態	日本全国に分布し、北日本で繁殖した個体の一部は越冬のため冬季に南へ移動する。海岸、大きな河川、湖沼の周辺に生息し、魚類を餌とする。人気のない海岸の岩の上や岩棚、山地の尾根上等の大径木の上に枯れ枝を積んで皿形の巣を作る。3月中旬から4月頃に2～3卵を産む。
オオタカ	確認状況	実施区域の農耕地において、秋季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川周辺において、冬季に1例1個体、秋季に1例1個体が確認された。 なお、実施区域には本種が営巣できる樹木は分布しない。また、実施区域の周辺地域においても営巣地となるまとまった樹林地は分布しない。
	一般生態	北海道、本州及び四国の一部で繁殖し、越冬期には全国でみられる。平地林や農耕地周辺に生息し、ツグミほどの大きさの小鳥のほか、ハト類、カモ類等の中型から大型の鳥類を捕食するが、時にはネズミ類、ウサギ等の哺乳類も捕食する。営巣期は3～7月頃で、主にマツ類やスギ、ヒノキ等の針葉樹林の樹上に枯れ枝を積み重ねて営巣し、普通3～4卵を産む。
ツミ	確認状況	秋季において、実施区域から実施区域の周辺地域にかけての水田地帯上空を飛翔する1例1個体が確認された。
	一般生態	北海道から九州で繁殖する。神奈川県では、夏鳥または留鳥として生息する。平地から亜高山帯の森林に生息し、近年では主に関東地方を中心に、住宅地の緑地や街路樹で繁殖するものが増加している。繁殖期は4～7月頃で、高い枝に巣をかける。スズメからツグミほどの大きさの小鳥類のほか、コウモリ類、ネズミ類等の哺乳類、セミ等の昆虫類を捕食する。

表 5.2.8.52(2) 注目すべき鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
コチドリ	確認状況	春季調査時において、実施区域の畑地から相模川方面へ飛翔する1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田で1例1個体が確認された。
	一般生態	主に夏鳥として渡来し、国内に広く分布する。河川敷や砂浜海岸、埋め立て地等で繁殖する。繁殖期は4～7月頃で、砂利・小石・貝殻等を集めただけの簡単な巣を地上につくる。採餌場所は主に湿地で、水田や川筋でも採餌する。餌は主に水生昆虫、ミミズ類等の小動物である。
ケリ	確認状況	実施区域の水田において、冬季に3例3個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、冬季に2例2個体、秋季に2例9個体が確認された。
	一般生態	本州の中部地方以北で夏鳥として繁殖するが、分布は局地的である。冬季は一部が越冬し、本州中部地方以南に比較的多い。水田、畑、川原等、平坦で開けた場所に生息する。水田等で地上を走り、昆虫類の成虫・幼虫を捕食するほか、イネ科やタデ科等の草の種子等を餌とする。繁殖期は3～6月頃で、巣は地上に窪みを掘り、枯れ草、蘚類、地衣類、木片等を敷く。草むらのなかでは、周りの草を踏み倒して窪みに替える。普通は4卵を産むことが多い。渡りの時期や冬季には群れをなすことがある。
タゲリ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、冬季に2例3個体が確認された。
	一般生態	冬鳥として本州、四国、九州等の各地に渡来する。水田、湿田、干潟、川原や湖沼の水辺等、開けて見通しのよい平坦地を好む。昆虫の成虫・幼虫等を餌とする。繁殖期は3～6月頃で、地上の草むらの中に窪みをつくり、草の葉等を集めて皿形の巣を作る。普通4卵を産む。
イソシギ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川及び相模川において、夏季に1例1個体、秋季に5例5個体が確認された。
	一般生態	全国に生息し、九州以北に夏鳥として渡来し、繁殖する。また、本州中部以南では冬季にもみられるが、留鳥かどうかは疑わしい。河川、湖沼等の水辺に生息し、水田、畑地等にも採餌に現れる。礫や砂泥の場所を好む。主として水生昆虫類を餌とする。繁殖期は4～7月頃で、砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿形の巣をつくる。
タシギ	確認状況	秋季調査時において、実施区域と実施区域の周辺地域の境界に位置する農業用水路で2例2個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川で1例1個体が確認された。
	一般生態	冬鳥または旅鳥として渡来する。大小河川、遊水池、休耕田、冬季の水田、用水路等で休息、越冬する。くちばしを泥中に入れて、主にミミズ類や昆虫類を捕食する。
コアジサシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に6例13個体、初夏に4例5個体、夏季に1例1個体が確認された。
	一般生態	本州以南に夏鳥として渡来し、湖沼や河川、河口等の大きな水系のある河原、砂州、砂浜等に生息する。主に体長10cm以下の小魚類等を捕食する。繁殖期は5～7月頃で、捕食者が近づきにくい小島や中州等の砂地に浅い窪みを掘って巣をつくる。

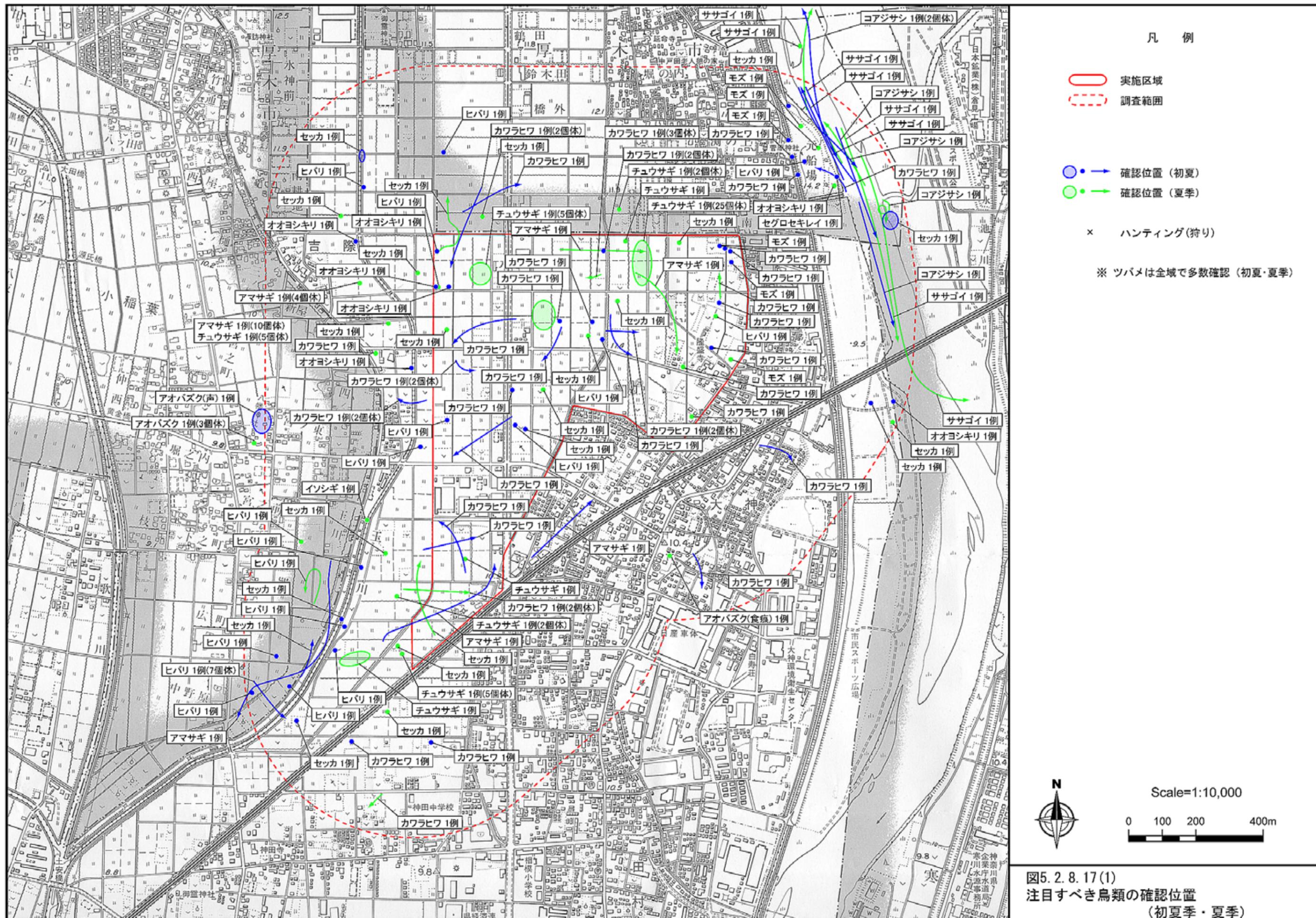
表 5.2.8.52(3) 注目すべき鳥類の確認状況及び一般生態

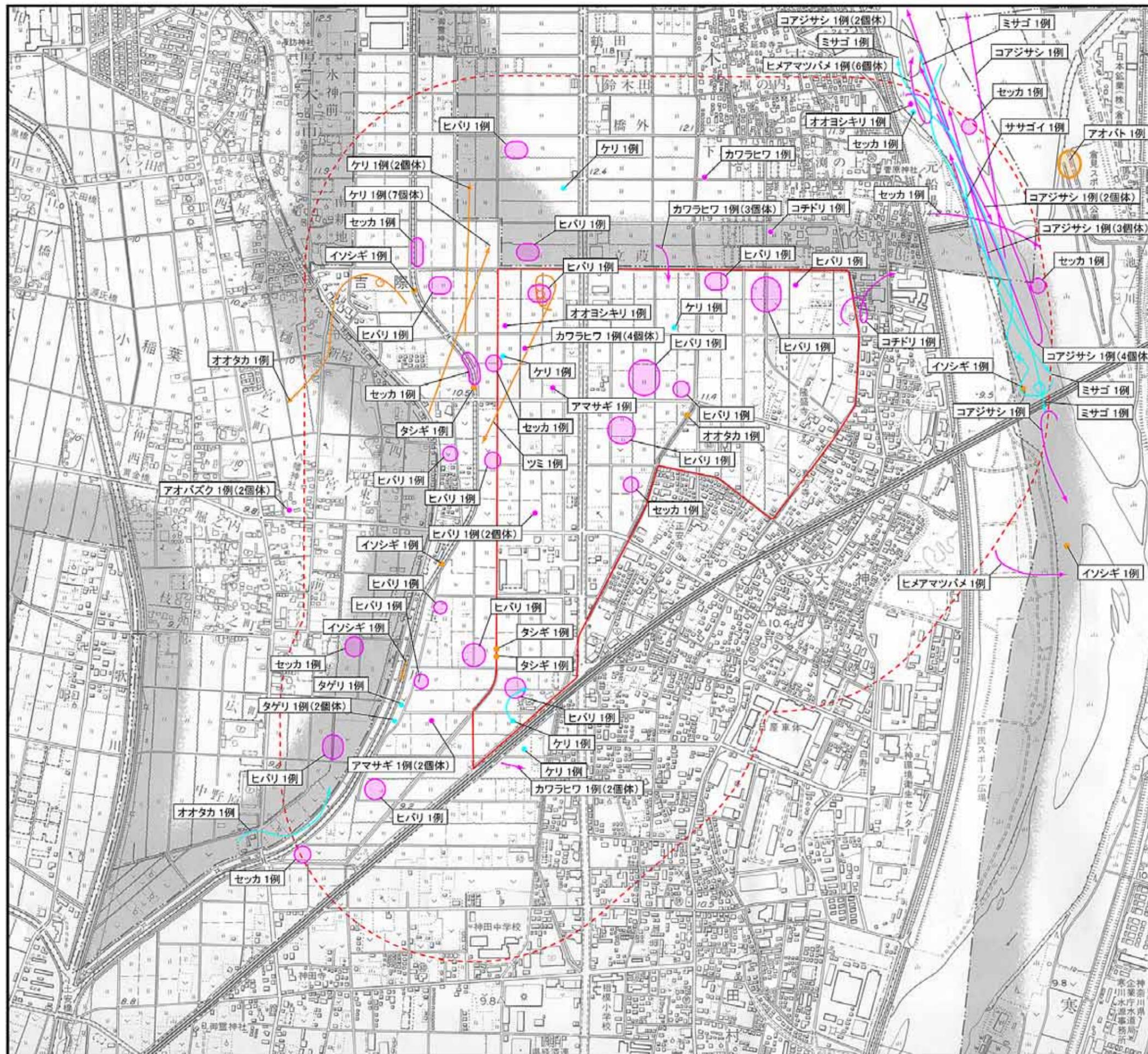
種名 (和名)	項目	内容
アオバト	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いにおいて、秋季に1例1個体の鳴き声を確認された。
	一般生態	北海道から九州で繁殖し、北部のものは冬季に南へ移動する。神奈川県内では夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。丘陵地から山地の森林に生息し、主に樹上で木の実を採餌する。数～数十羽の群で行動することが多い。繁殖期は6月頃で、樹上に浅い皿形の巣をつくり繁殖するが、巣の発見例は稀である。春季から秋季に群で海岸の岩礁に飛来し、海水を飲む習性があり、神奈川県内では大磯町照ヶ崎海岸が飛来地として知られている。
アオバズク	確認状況	実施区域の周辺地域に位置する八幡神社境内において、春季に1例2個体、初夏に鳴き声(さえずり)、夏季に1例3個体(成鳥1個体、幼鳥2個体)を確認された。また、実施区域の周辺地域の神社境内において、夏季に食痕を確認された。
	一般生態	全国に夏鳥として渡来し、平地から低山にかけての広葉樹林、照葉樹林、混交林に生息する。夜行性で主に昆虫類を捕食するほか、コウモリ類等も捕食する。繁殖期は5～8月頃で、樹林や社寺林、屋敷林等の樹洞に営巣する。
ヒメアマツバメ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に2例7個体を確認された。
	一般生態	ももとは日本には生息しない鳥類であったが、1960年代に関東地方以南の太平洋岸で局所的に観察され、それ以降分布が拡大する傾向にある。留鳥として、主に平野部の市街地やその周辺の丘陵地に生息する。上空を飛び回りながら、飛翔性昆虫類を捕食する。繁殖期は4～12月頃で、1シーズンに2～3回繁殖を行う。建造物のひさし等に集団で営巣する。
ヒバリ	確認状況	実施区域及びその周辺地域の水田地帯において、春季に19例20個体、初夏に15例21個体、夏季に3例3個体を確認された。
	一般生態	九州以北から北海道までの全国で繁殖する。積雪の多い地方では冬季に南下して越冬し、留鳥あるいは漂鳥として生息する。平地から高山の牧草地、草原、河原、農耕地、埋め立て地等に生息し、低茎草本が疎らに生えた乾燥地を好む。昆虫類やクモ類を餌とするほか、秋季や冬季には草の種子も採食する。繁殖期は4～7月頃で、草の生えた地上に巣をつくる。繁殖期には雄は空に舞い上がり、空中でさえずる“さえずり飛翔”を行う。
ツバメ	確認状況	実施区域及びその周辺地域の農耕地から市街地、相模川流域まで、ほぼ全域において、春季から夏季にかけて多数の個体を確認された。
	一般生態	夏鳥として全国に渡来し繁殖する。市街地や山間の村落に多く、空中で昆虫類を捕食する。繁殖期は4～7月頃で、人家や駅、商店等の人の住む建造物の軒下に営巣する。繁殖が終了した8月頃からは、河川の流域や海岸、河口等にあるヨシ原に集団でねぐらを形成する。
セグロセキレイ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、初夏に1例1個体を確認された。
	一般生態	九州以北に留鳥として生息する日本列島の固有種である。河原等の水辺に生息し、主に水生昆虫類を捕食する。本州では3～6月に繁殖し、石垣、地上の石や草の下、建築物の屋根や柱の隙間等に営巣する。

表 5.2.8.52(4) 注目すべき鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
モズ	確認状況	実施区域において、初夏に2例2個体、夏季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、初夏に1例1個体、夏季に2例2個体が確認された。
	一般生態	全国に分布し、積雪地では冬に暖地に移動する。疎林や林縁、木のある草地、農耕地、公園等に生息し、昆虫類やミミズ、両生・爬虫類、鳥類、小型哺乳類を捕食する。繁殖期は2月下旬～8月頃で、低木の藪の中に小枝・枯れ草・ビニール紐等を用いて椀型の巣をつくる。
オオヨシキリ	確認状況	実施区域のヨシ原において、春季に1例1個体、初夏に2例2個体、夏季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域のヨシ原において、春季に1例1個体、初夏に3例3個体、夏季に1例1個体が確認された。
	一般生態	北海道北・東部と沖縄を除く全国に夏鳥として渡来し、水辺のヨシ原等に生息する。茎から茎へと移動しながら昆虫類を捕食する。繁殖期は5～8月頃で、ヨシの茎の間にイネ科の葉や茎を用いて椀型の巣をつくる。
セッカ	確認状況	実施区域の農耕地において、春季に1例1個体、初夏に1例1個体、夏季に7例7個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域のヨシ原において、冬季に1例1個体、春季に8例8個体、初夏に7例7個体、夏季に8例8個体が確認された。
	一般生態	本州以南の各地に分布し、北部のものは冬季に南下する。低地から山地の草原、水田に生息し、チガヤやカルカヤ等丈の低いイネ科草本が茂る草原を好む。植物群落内を移動しながら、昆虫類やクモ類を捕食する。繁殖期は4～9月中旬頃と長く、チガヤやススキ等のイネ科の葉をクモの糸で縫い合わせて球巣をつくる。
カワラヒワ	確認状況	実施区域において、春季に2例7個体、初夏に17例21個体、夏季に5例8個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、春季に2例3個体、初夏に9例10個体、夏季に2例2個体が確認された。
	一般生態	北海道から九州までの全域に分布する。主に留鳥として年中みられるが、北海道や雪の多い地方では夏鳥で、冬は温暖な地方に移動する。人家周辺や農耕地、雑木林、河原に生息する。四季を通じて、キク科、イネ科、タデ科、マメ科等の植物の種子だけを採食する。繁殖期は3～7月頃で樹木に椀型の巣をつくる。

注) 1.参考：平凡社「日本動物大百科 3鳥類Ⅰ」(平成8年)
 平凡社「日本動物大百科 4鳥類Ⅱ」(平成9年)
 保育社「原色日本野鳥生態図鑑 (陸鳥編)」(平成7年)
 保育社「原色日本野鳥生態図鑑 (水鳥編)」(平成7年)
 神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年)
 2.表中の確認個体数は、のべ数である。





- 凡例
- 実施区域
 - 調査範囲
 - 確認位置 (冬季)
 - 確認位置 (春季)
 - 確認位置 (秋季)
 - × ハンティング(狩り)
 - ※ ツバメは全域で多数確認 (春季)

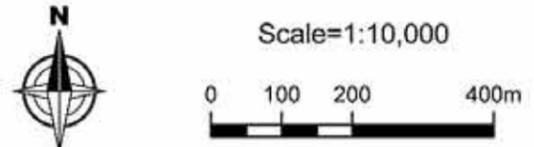


図5.2.8.17(2)
 注目すべき鳥類の確認位置
 (冬季・春季・秋季)

ウ. 両生類・爬虫類

抽出の結果、表 5.2.8.53～54 に示すとおり、文献資料に基づく種として、4 科 7 種が確認され、現地調査では、1 科 3 種（亜種）が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.18 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.55 に示すとおりである。

表 5.2.8.53 注目すべき両生類・爬虫類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名 和名	文 献				選定基準						
				①	②	③	④	1	2	3	4			
1	カエル目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル			●								要
両生類:1目1科1種				0種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	
2	カメ目	イシガメ科	イシガメ			●							DD	CR+EN
3	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ			●								要
4		ヘビ科	シマヘビ			●								要
5			アオダイショウ			●								要
6			ヒバカリ			●								NT
7			ヤマカガシ			●								要
爬虫類:2目3科6種				0種	0種	6種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	6種	
3目4科7種				0種	0種	7種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	7種	

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.54 注目すべき両生類・爬虫類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲									
		1	2	3	4	5	実施区域				実施区域の周辺地域					
							春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季		
イシガメ	クサガメ					一									●	
ヘビ	シマヘビ				要					●	●	●	●	●	●	●
	アオダイショウ				要						●			●	●	●
	ヒバカリ				NT	二										●
1 科 3 種(亜種)		0 種	0 種	0 種	3 種 (亜種)	2 種	0 種	0 種	0 種	1 種	2 種	1 種	3 種	3 種 (亜種)		
										1 種		4 種				

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.55 注目すべき両生類・爬虫類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項 目	内 容
シマヘビ	確認状況	実施区域において、秋季に 1 個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、春季に 1 個体、初夏に 1 個体、夏季に 1 個体、秋季に 1 個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州のほか、佐渡島、伊豆諸島、隠岐、壱岐、五島、御蔵島以北の大隅諸島等の島嶼に分布する。日本固有種である。平地から低山地にかけての比較的開けた草地や林縁等に生息し、水田周辺等に多くみられる。主にトカゲやカエルを捕食する。
アオダイショウ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿い及び市街地において、春季に 2 個体（うち、1 個体は死体）、夏季に 1 個体（死体）、秋季に 1 個体（死体）が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、国後、佐渡島、伊豆大島、隠岐、対馬、五島、薩南諸島等の島嶼に分布する。日本固有種である。平地や低山地の樹林や農耕地等に生息する。樹上性の傾向が強く、木に登って鳥類のヒナ等を捕食するほか、木造の住宅等にも進入し、屋根裏でネズミ類等も捕食する。
ヒバカリ	確認状況	実施区域の周辺地域において、秋季に 2 個体（うち、1 個体は死体）が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、佐渡島、三宅島、隠岐、壱岐、屋久島、下甕島等に分布する。日本固有種である。長崎県男女群島には亜種関係にあるダンジョヒバカリが分布する。樹林や草地、水田周辺等に生息し、主にカエル類やミズズミ類等を捕食するが、水中に入って小魚を捕らえることもある。

注) 参考：平凡社「日本動物大百科 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類」(平成 8 年)

平凡社「決定版 日本の両生爬虫類」(平成 14 年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(平成 18 年)

凡 例

-  実施区域
-  調査範囲
-  確認位置 (春季)
-  確認位置 (初夏)
-  確認位置 (夏季)
-  確認位置 (秋季)

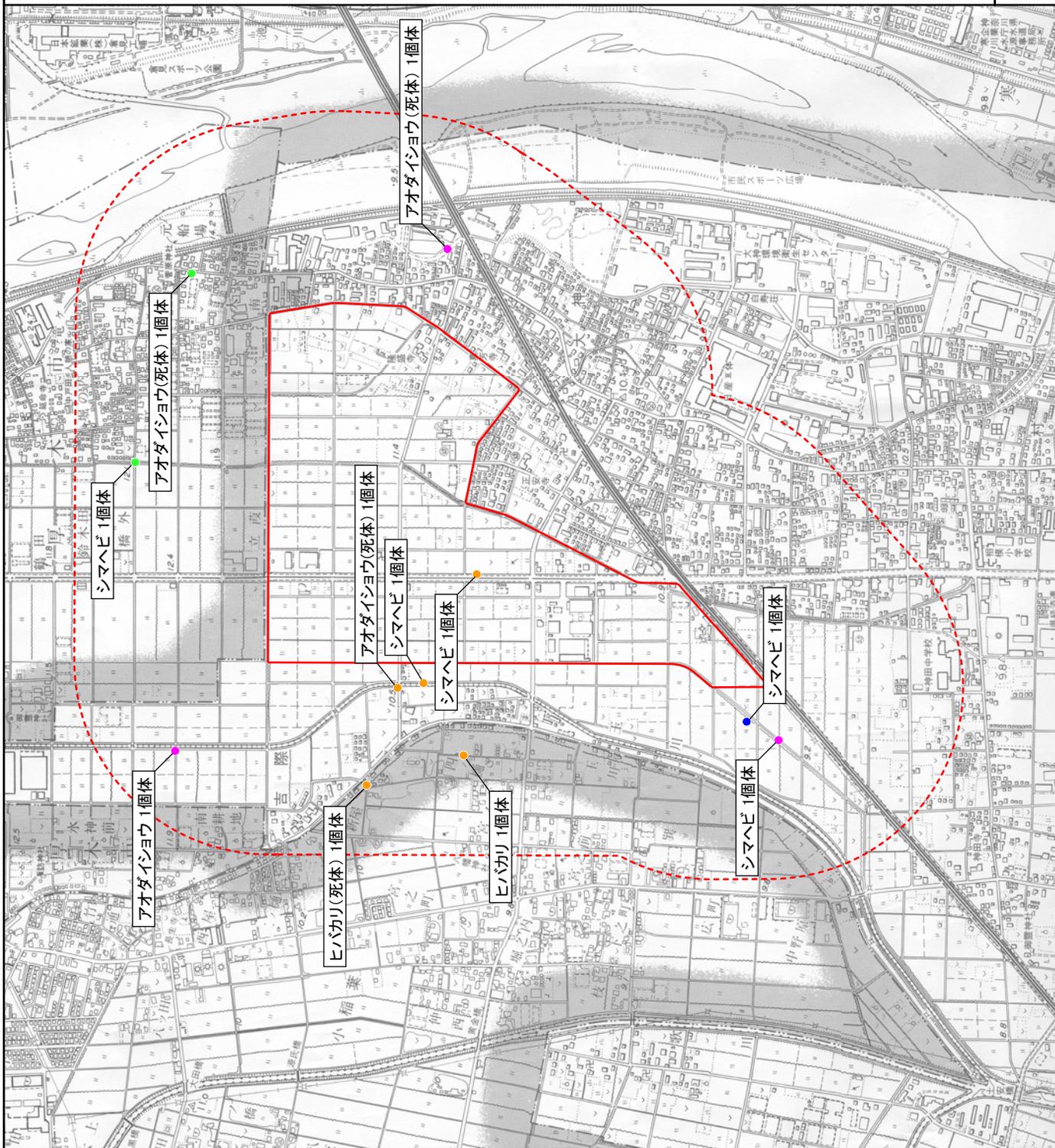
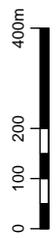


図5.2.8.18
注目すべき両生類・爬虫類の確認位置

エ. 昆虫類

抽出の結果、表 5.2.8.56～57 に示すとおり、文献資料に基づく種として、21 科 47 種が確認され、現地調査では、8 科 11 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.19 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.58(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2.8.56 注目すべき昆虫類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名	文 献				選定基準						
			和名	①	②	③	④	1	2	3	4			
1	トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ			●						要		
2			セスジイトトンボ			●							要	
3			モノサシトンボ	モノサシトンボ			●						NT	
4			アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ			●						要	
5			カワトンボ	ハグロトンボ			●						要	
6			トンボ	コフキトンボ			●							要
7				ハラビロトンボ			●							要
8				シオヤトンボ				●						要
9				チョウトンボ				●						EN
10				ナツアカネ				●						要
11				マユタテアカネ				●						要
12				ミヤマアカネ				●						NT
13	バッタ	ケラ	ケラ			●						要		
14		コオロギ	クロツヤコオロギ			●						NT		
15		スズムシ	スズムシ			●						要		
16		マツムシ	マツムシ			●						要		
17		キリギリス	キリギリス			●						要		
18		オナガササキリ				●						要		
19	バッタ	ショウリョウバッタモドキ			●						要			
20	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ			●						NT		
21	ミズムシ	Sigara属の一種			●							DD		
22	コウチュウ	オサムシ	フタモンマルクビゴミムシ			●						NT	CR+EN	
23			コハンミョウモドキ			●							VU	VU
24			アシグロチビヒョウタンゴミムシ			●								NT
25			フタボシチビゴミムシ			●								NT
26			アトスジチビゴミムシ			●								VU
27			デンリュウメダカチビカワゴミムシ			●								DD-B
28			オビモンコズギワゴミムシ			●								NT
29			ヨツボシツヤナガゴミムシ			●								CR+EN
30			キアシツヤヒラタゴミムシ			●								NT
31			ヨツボシゴミムシ			●								NT
32			イグチケブカゴミムシ			●								NT
33			クロケブカゴミムシ			●								NT
34			クビナガヨツボシゴミムシ			●								VU
35			エンママシ	ドウガネエンママシ			●							CR+EN
36			ルリエンママシ			●								VU
37	センチコガネ	ムネアカセンチコガネ			●							NT		
38	タママシ	ヤマトタママシ			●							要		
39	ツチハンミョウ	マメハンミョウ			●							要		
40	カミキリムシ	キイロトラカミキリ			●							要		
41		トラフカミキリ			●							要		
42		ブドウトラカミキリ			●							NT		
43		シロスジカミキリ			●							要		
44		ルリカミキリ			●							VU		
45	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			●						NT	NT	
46			ミヤマチャバネセセリ			●							要	
47			コムラサキ			●							EN	
5目21科47種				0種	0種	47種	0種	0種	0種	0種	3種	47種		

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.57 注目すべき昆虫類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲								
							実施区域				実施区域の周辺地域				
		1	2	3	4	5	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季	
カワトンボ	ハグロトンボ				要			●	●				●	●	
トンボ	コフキトンボ				要									●	
	ハラビロトンボ				要							●			
	チョウトンボ				EN	一								●	
	ナツアカネ				要										●
ケラ	ケラ				要			●					●		
キリギリス	キリギリス				要								●		
クビナガカメムシ	クロクビナガカメムシ				DD								●		
オサムシ	フタバシチビゴミムシ				NT							●			
ガムシ	コガムシ				NT								●		
コガネムシ	アオドウガネ					二			●						
ミズアブ	コガタミズアブ				DD									●	
8科11種		0種	0種	0種	11種	2種	0種	2種	2種	0種	1種	7種	3種	1種	
							3種				11種				

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.58(1) 注目すべき昆虫類の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
ハグロトンボ	確認状況	任意調査時において、実施区域の水路で初夏に1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川及び相模川沿いにおいて、初夏に8個体、夏季に1個体確認された。また、ハグロトンボ生息量調査時には、実施区域の水路で8個体、実施区域の周辺地域を流れる笠張川、相模川、用水路で合計71個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州のほか、佐渡島や淡路島といった島嶼にも分布する。幼虫は、平地や丘陵地等を流れる河川の水生植物が生育する場所に生息する。羽化後の一定期間は水辺から離れた樹林内で生活し、成熟すると岸際に縄張りをもつ。
コフキトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川の河川敷において、夏季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道南部、本州、四国、九州に分布する。神奈川県内では各所から記録されているが、県西部では少ない。平地の抽水植物が繁茂する腐植栄養型の池沼や湿地、水田等に生息し、5～10月上旬頃にみられる。未熟個体も羽化水域を離れず、出現期の初めには抽水植物に群がり止まっている。成熟した雄は日中に池面を活発に飛翔して縄張り占有行動を行うが、夕方辺りが暗くなるまで飛び回る。
ハラビロトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いの湿生植物群落において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、種子島等に分布する。神奈川県内では各地の丘陵地、河川敷に分布するが、生息している個体数が減少傾向にある。浅い池沼や湿地、谷戸等を主な生息地とし、休耕田等でもよくみられる。成虫の発生は6月上旬～7月中旬頃が最盛期である。

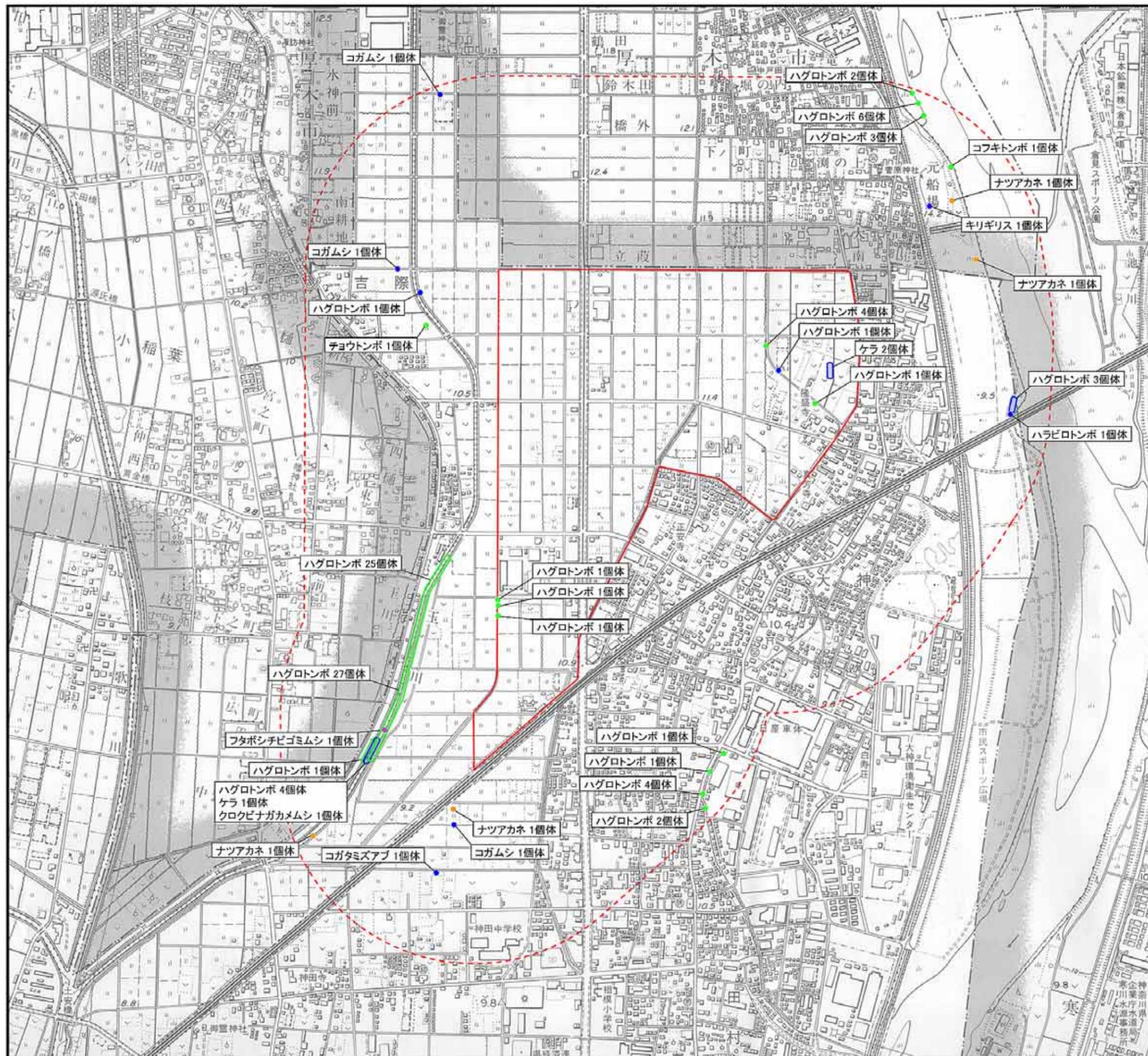
表 5.2.8.58(2) 注目すべき昆虫類の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
チョウトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、夏季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、五島列島、大隈諸島に分布する。神奈川県内では各地の記録はあるが、移動・飛来個体の記録が主体で、安定して発生する産地は稀である。沈水植物や浮葉植物が多く生育している自然度の高い止水域を好んで生息する。成虫の移動分散性は強く、水域のない場所で発見されることもある。5～8月頃に成虫がみられ、産卵の際はヒシ等の浮葉植物のある場所を好む。
ナツアカネ	確認状況	実施区域の周辺地域の相模川及び笠張川沿い、ヨシ原において、秋季に4個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布し、幼虫は平地から低山地にかけての抽水植物の繁茂する池沼や水田等の止水域に生息する。成虫は初夏に羽化を始め、晩秋までみられる。未成熟時は羽化水域付近の樹林の中で生活している。秋季になると体が赤く色づき、水辺に出てきて繁殖行動をとる。
ケラ	確認状況	初夏の調査時において、実施区域の畑地(Bt.1)で2個体、実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿いの草地(Bt.3)で1個体、合計3個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。神奈川県内では低地に広く分布しているが、水田地帯でも声を聞かれることが少なくなっており、減少傾向にあると考えられている。水田付近の湿地に穴を掘って生活する。雄は地中で鳴く。飛翔することができ、灯火にもしばしば飛来する。
キリギリス	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いの草地において、初夏に幼虫1個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、主に高茎草地に生息する。夏季に成虫が出現し、昼間さかんに鳴く。幼虫・成虫ともに雑食性である。
クロクビナガカメムシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿いの草地(Bt.3)において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	本州、四国に分布する。神奈川県内では、横浜市南部と寒川町から各1例ずつの記録がある。生態は不明であるが、雑木林を切り開いた運動場で夕暮時に発見されたり、灯火に飛来したりする。
フタバシチビゴミムシ	確認状況	実施区域の周辺地域の高茎草地(Bt.3)において、春季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布し、谷戸や河川敷等の湿地周辺のヨシ原等に生息する。水際に堆積したゴミ等の下によくみられ、灯火にも飛来する。食性等の詳しい生態は不明瞭な点が多いが、ほとんどのゴミムシ類が肉食であることから、小型昆虫を捕食するなどの肉食を行っていると考えられる。
コガムシ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、初夏に3個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、植生の豊富な水田や湿地、池沼等に生息する。繁殖期は6月頃で、水草の間に白いまゆをつくり、その中に産卵する。幼虫は肉食性で他の水生昆虫等を捕食するが、成虫は主に草食性である。
コガタミズアブ	確認状況	実施区域の周辺地域の草地において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。神奈川県内では県央の海老名市、厚木市、中井町からの記録がある。水田の流路や畦を生息場所としており、水田や湿地の減少により、生息地が減少していると考えられている。

注) 参考: 学研「学研生物図鑑昆虫Ⅲ」(昭和58年)

北海道大学図書刊行会「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」(平成11年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年)



凡例

- 実施区域
- 調査範囲
- 確認位置 (春季)
- 確認位置 (初夏)
- 確認位置 (夏季)
- 確認位置 (秋季)

※ 夏季調査にはハグロトンボ生息量調査の結果を含む



Scale=1:10,000

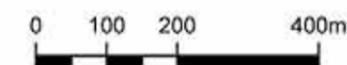


図5.2.8.19
注目すべき昆虫類の確認位置